



®環境省
エコアクション21

認証・登録番号 0006924

環境活動レポート

平成28年度（平成27年10月～平成28年9月）



福岡県RDB絶滅危惧Ⅱ類 コツバメ



KINOSHITA

平成29年 1月15日 発行

木下緑化建設株式会社

ごあいさつ

昨年は木下緑化建設㈱の設立 50 周年パーティーを現役社員以外に退職したOB社員を招待して開催しました。50 年間という企業活動は、多くの社員、お客様、協力会社に支えて頂いた結果であることをあらためて感じます。

会社は高度成長期、バブル経済、デフレ不況と、大きな時代の流れを乗り越えてきました。この間、公共工事中心の経営から、民間工事にシフト、廃棄物処分業への参入、官から民の時代の流れの中で指定管理者制度へのシフトと業態を変えてきました。この4月からは春日公園の指定管理開始に向けて準備を進めているところです。これで、指定管理は5件目となり、造園業者では西日本でトップクラスとなります。

多くの緑地を建設・マネジメントする会社として「地域の緑地の価値の向上」「利用者の視点」「維持・運営管理者の視点」で環境経営に益々力を注いでいきたいと考えています。



目 次

1.	会社概要	2
2.	経営理念と環境方針	4
3.	環境活動推進体制	4
4.	環境目標・計画・実績・評価・次年度の取組（本社/田主丸）	5
5.	環境目標・計画・実績・評価・次年度の取組（リサイクルセンター）	8
6.	マテリアルバランス	10
7.	その他環境関連活動	11
	1) 認証等	11
	2) 地球温暖化の緩和、快適な環境づくり	11
	3) 風力発電への取組	12
	4) 既存緑地の管理 公園の指定管理	13
	5) ビオトープへの取り組み	15
	6) 社会貢献	16
8.	環境関連法規等遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	17
9.	代表者による全体評価と見直しの結果	18

1. 会社の概要

- 会社名 木下緑化建設株式会社
- 代表者名 代表取締役社長 木下 浩市
- 所在地 本 社 福岡市南区長丘3丁目13番27号
田主丸営業所 福岡県久留米市田主丸町志塚島219番地1
緑のリサイクルセンター 福岡県久留米市田主丸町志塚島字徳間林1番3
- 環境管理責任者 営業部 主任 山口 琢也
- 連絡先 TEL 092-551-0877 FAX 092-552-7041
E-mail kanri@kinoshitaryokuka.co HP <http://www.kinoshitaryokuka.com/>
- 営業種目 植木、苗木の販売/各種公園設計施工/土木工事一式/産業廃棄物の収集、運搬、処理業/
一般廃棄物の収集、運搬、処理業/公園・スポーツ施設等、施設緑地の運営、管理、および
運営受託に関する業務/農産物の生産・加工・販売、農園・農産物直売店・農産物加工所の
経営、および運営受託に関する業務/キャンプ場、バーベキュー場および研修教育施設の
運営並びに運営受託に関する業務/公園、施設緑地等における教育・文化事業の企画および
興業/地方自治法に基づく指定管理者制度による公共施設の運営受託に関する業務/産業
廃棄物再資源化（木くず）業務/不動産の賃貸借による収益業務 等
- 設 立 昭和42年 2月 9日
- 資本金 4,500万円
- 売上高 平成28年度 78,585万円
- 事業年度 平成27年10月1日～平成28年9月30日
- 従業員数 43名
- 床面積 本社 612.15㎡ 田主丸営業所 52㎡ 緑のリサイクルセンター 3,888㎡
- 許可番号 造園工事業 国土交通大臣許可（特-27）第7066号
土木工事業 とび・土工工事業 国土交通大臣許可（般-27）第7066号

【産業廃棄物処分業許可証】

県及び市	許可番号	事業の範囲	許可年月日 有効期限年月日
久留米市長	第11220080473号	中間処理【破碎（移動式を含む）】：木くず 中間処理（発酵）：木くず	平成28年11月29日 平成33年11月28日

【一般廃棄物処分業許可証】

県及び市	許可番号	事業の範囲	許可年月日 有効期限年月日
久留米市長	第3014号	中間処理【破碎（移動式を含む）】：木くず、草 中間処理（発酵）：木くず、草	平成28年4月1日 平成30年3月31日

【産業廃棄物収集運搬業許可】

県及び市	許可番号	事業の範囲	許可年月日 有効期限年月日	積替 保管
福岡県知事	第4000080473号	木くず	平成28年10月20日 平成33年10月19日	無

【一般廃棄物収集運搬業許可】

県及び市	許可番号	事業の範囲	許可年月日 有効期限年月日	積替 保管
久留米市長	第1014号	木くず、草 (事業系一般廃棄物に限る)	平成28年 4月 1日 平成30年 3月31日	無

【特殊肥料生産販売】

福岡県 第2201号

リサイクルウッド堆肥	福岡県第 4895号 (チップ)
ゴールデンアース	福岡県第 5204号 (放線菌)
ゴールデンアース2	福岡県第 5249号 (キンド・尿素等)

●資格者数

資格名	人数	資格名	人数
1級造園施工管理技士	16名	公園管理運営士	2名
2級造園施工管理技士	8名	植栽基盤診断士	3名
1級土木施工管理技士	8名	街路樹剪定士	2名
2級土木施工管理技士	6名	破碎・リサイクル施設技術管理士	3名
1級建築施工管理技士	1名	自然再生士	2名
樹木医	1名	屋上緑化コーディネーター	1名
ピオトープ管理士(2級施工)	1名	職長・安全衛生責任者	25名

●収集運搬

運搬車両の種類と台数

キャブオーバー	2 t 2台
ダンプ	2 t 1台
キャブオーバー	2.85 t 1台
コンテナ専用車	3.85 t 1台

●処理施設

施設の種類	移動式破碎施設(日立建機日本株) ZR260HC)
処分能力(規模)	213 t/日(8h)
施設の種類	移動式破碎施設(株式会社諸岡 MC-2000型)
処分能力(規模)	27.44 t/日(8h)

●対象範囲

対象組織 : 本社・田主丸営業所・緑のリサイクルセンター
 対象活動 : 造園工事業・土木工事業・とび・土工工事業、産業廃棄物処分業
 一般廃棄物処分業、産業廃棄物収集運搬業、一般廃棄物収集運搬業

2. 経営理念と環境方針

【 経営理念 】

- ・環境づくりに技術研鑽を通じて地域社会に貢献する。
- ・品質確保と信頼に勤め顧客満足を向上する。
- ・常に会社の繁栄と社員の生活向上に努める。

【 環境方針 】

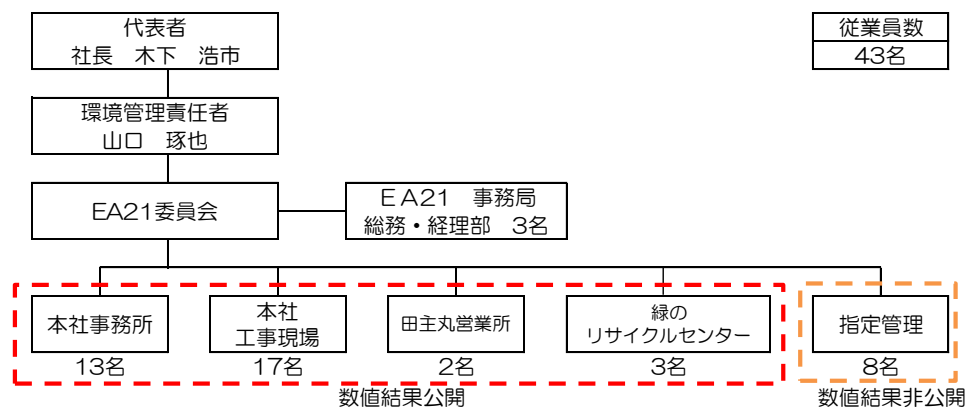
木下緑化建設株式会社は、緑の住環境づくりを通じて「快適な暮らしと緑」「自然との共生」を掲げ、全従業員が事業活動のあらゆる面で地球環境に影響を与えていることを配慮して行動します。

- 環境経営システムを構築し、次の事項を重点的なテーマとして取り組みます。
 - CO₂排出量の削減
 - 廃棄物の削減
 - 排水量（水使用量）の削減
 - リサイクルの促進
 - グリーン購入の促進
 - ビオトープへの取組
 - 社会貢献に努める
 - 計画的な環境教育・訓練の実施
 - 化学物質の適正管理
- 地球温暖化の緩和、快適な環境づくりに貢献します。
 - 公園、集合住宅緑化、工場緑化、外構造園の緑化事業はもとより、屋上緑化、壁面緑化、駐車場緑化等の環境緑化事業を推進します。
 - 開発やメンテナンスにより発生する根株や剪定枝、草をチップ化し堆肥製造させて植生基盤材として、新しい緑地へ還元します。
 - 温室効果ガスをほとんど排出しない発電方法である「風力発電」の普及に取組みます。
- 関係する環境関連法規を順守します。

制定：平成22年10月1日

改訂：平成27年10月1日

3. 環境活動推進体制



所属	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> ・代表として環境経営全般について責任と権限を持つ。 ・環境方針の作成・見直し・従業員への周知を行う。 ・環境管理責任者、EA21事務局員を任命する。 ・EA21全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・EA21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築、実行し、環境実績を向上させる。 ・環境方針、環境目標、環境活動計画の達成と実績の結果を 合同会議で報告する。 ・発生した問題点を経営会議で報告し、是正処置、予防処置を合同会議にて全従業員へ周知徹底する。
EA21事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者を補佐し、EA21文書及び記録類の作成・維持・管理を行う。 ・社外からの環境情報の収集と伝達を行う。
EA21委員会（経営会議）	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針、環境目標の達成状況及び環境計画の実行状況を審議する。 ・関連する法規制等を各課員へ周知徹底し順守する。 ・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚する。 ・緊急事態への準備及び対応の訓練をKY活動で実施する ・EA21方針を守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する

4. 環境目標・計画・実績・評価・次年度の取組 本社/田主丸

●平成 28 年度は以下の計画に基づき活動を行いました。

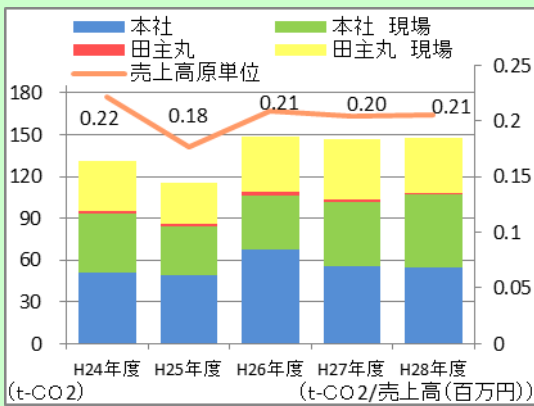
目 標 項 目	活 動 計 画
二酸化炭素排出量の削減	全社員出席の合同会議（月1回）の議題項目に“E A21報告”を設ける。 電気使用量の削減、燃料（ガソリン、軽油）の削減を周知徹底する 朝礼で“E A21スローガン”唱和 環境活動の周知徹底
電気使用量の削減	使用していない機器類・照明の電源OFF 仕事の効率化を図る
燃料使用量の削減	車両の切り替え 幹部車両は原則ハイブリッドカーとする ipadを活用した情報伝達で無駄な移動を無くす 仕事の効率化を図る アイドリングストップの励行とエコドライブの徹底
廃棄物排出量の削減	発生原因の重大要素をつかみ、改善策を設定する。
コピー機使用量の削減	紙媒体以外のPR強化 使用済紙の再利用（コピー裏紙の再利用）
水使用量の削減	水資源の無駄が無いように実績管理（こまめな節水） 出荷予定樹木の夏場の灌水（田主丸農場での樹木仮置き期間の短縮）
グリーン購入の促進	事務用品・消耗品購入時のグリーン商品の選定
ビオトープへの取り組み	自然教育の実施（8回開催） 九千部山での生物種の確認 生物多様性の重要性啓発（フェイスブックの積極的な更新）
社会貢献に努める	環境活動や子供たちの育成に協力、地域イベントに参加し指導に努める
環境教育・訓練	造園CPD年間50単位の推奨
化学物質の適正管理	使用する農薬の質と量の管理

●各項目の実績値・売上高原単位は以下の通りです。

（平成 28 年度より目標の設定や評価の確認を各排出量・使用量を売上高で割り算出した原単位にて行う事としました。）

※電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の平成 19 年度実排出係数 0.387 k g -CO2/ k whを使用した。

二酸化炭素排出



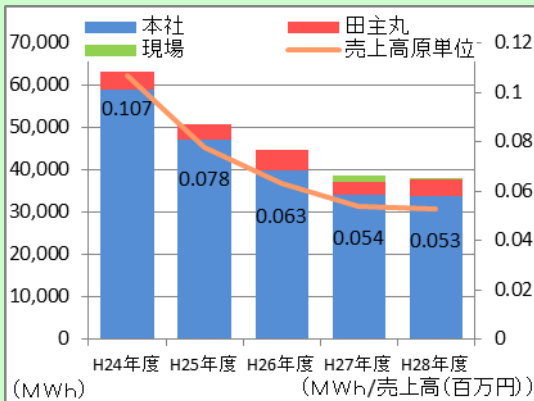
取組結果

工事高の増加に比例し、本社現場でのCO2排出量が増加となった。一方、田主丸現場(農場)では、出荷物の複数現場同梱や、本社に出荷物を仮置きし、日をまたいだ複数現場同梱等により排出削減に繋がった。

次年度の取組

平成 29 年度もさらなる工事高の増加が見込まれます。農場の整理・改良を行い、樹木の掘取・出荷までの手間の縮減を行う事で、排出量の抑制に努めます。

電気使用



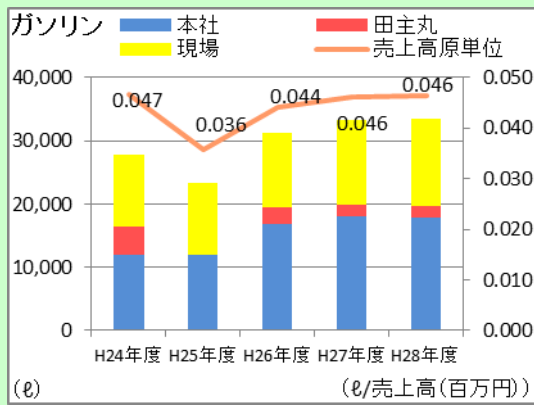
取組結果

社内の節電設備への改修もほぼ完了し、電力の削減幅は微減となっています。中でも漏電箇所の発見改修等を行い、無駄な使用量の削減に努めました。

次年度の取組

節電設備への改修による削減効果は一定の成果を挙げることが出来ました。今後は、消し忘れ・使いすぎを無くす等、一人一人の意識と行動による削減を今以上に追求していきます。

燃料使用



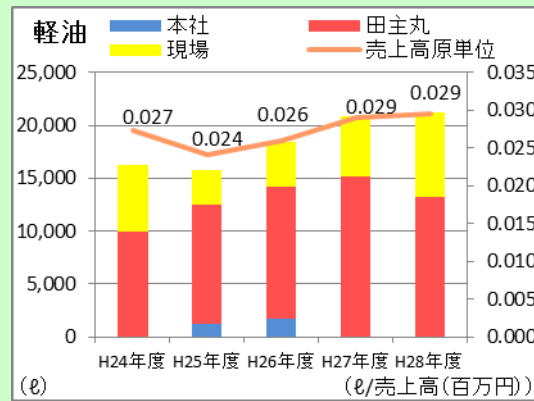
取組結果

本年度も1台の車両をハイブリッド車に買替えました。しかし、社員数の増加(H27年度33人⇒H28年度43人)に伴い4台の車両を増加した事で、全体の燃料使用は昨年同様となりました。

次年度の取組

昨年同様だったとはいえ、4台増加した上での実績であり、ハイブリッド車買替による削減効果は高いため、今年度も買替を推進していきます。

燃料使用



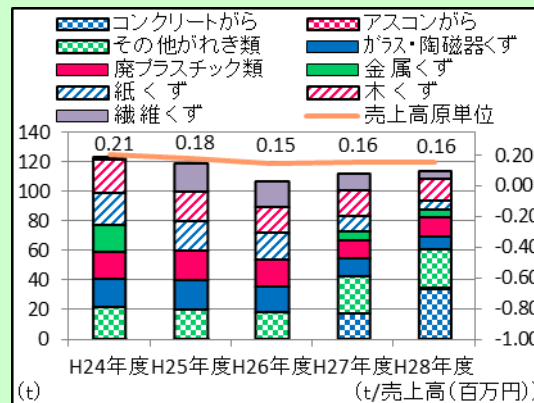
取組結果

二酸化炭素排出の項でも触れた通り、本社工事増による使用量増加と田主丸農場による配達効率の向上が増減相殺となり、昨年同様の結果となりました。

次年度の取組

田主丸農場の配達効率の向上を手本とし、本社工事においても、現場間の移動や工程における効率の向上を図ります。

産廃ボックスの廃棄物排出



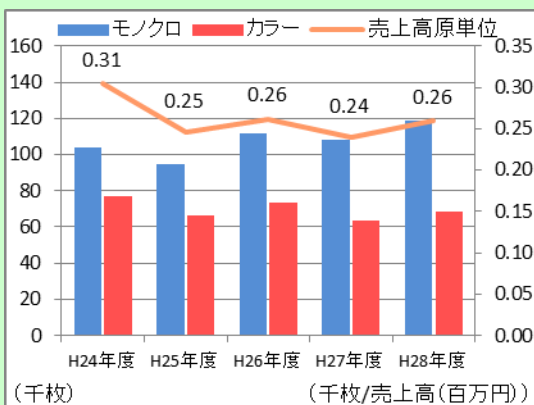
取組結果

その他がれき類(未分類)の排出増加が目立つ結果となりました。工事現場において、現場で処分頂くもの当社で持ち帰るものの区別に曖昧さが感じられます。

次年度の取組

現場の要請に応じる形で、未分類のまま持ち帰るのではなく、しっかり種別を分け、現場にてリサイクルに出して頂くものは、適正な処置を行って頂くよう、是正していきます。

コピー機使用



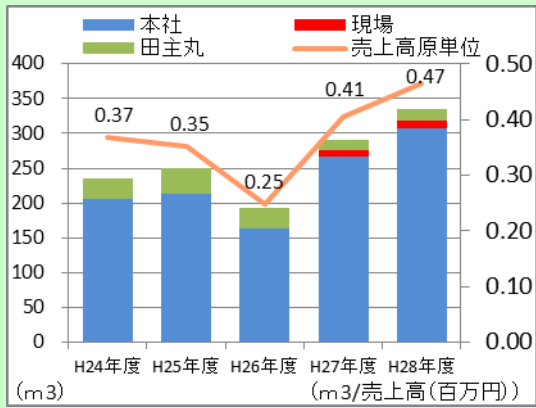
取組結果

昨年度より使用枚数・原単位共に増加しています。原因としては新規の公園指定管理への応募書類の作成に伴い印刷枚数が増加したことが挙げられます。

次年度の取組

現在の使用に異常は見られないので引き続き不要なカラー印刷を控え、ミスプリントが無いよう注意喚起を行う。また裏紙使用の意識が低下傾向にあるため、再度の喚起を促します。

水使用



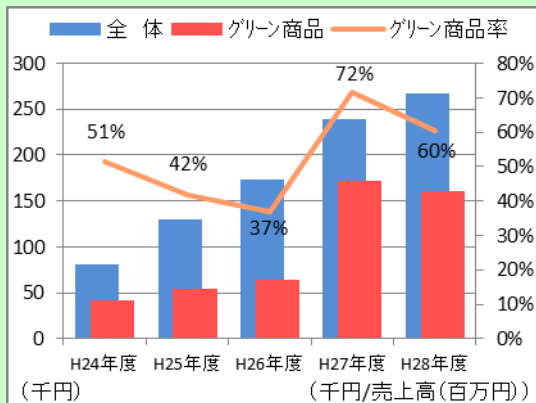
取組結果

平成27年度より2年連続で数値の増加が見られます。原因としては本社社屋老朽化に伴う漏水と田主丸営業所における植栽工事に使用する植木等への自動灌水装置の新規設置が挙げられます。

次年度の取組

定期的な漏水の点検を行い、再発防止を図ります。また、平成29年度に本社2Fと3Fのトイレを節水タイプに取替を行い、増加傾向に歯止めを掛けます。

グリーン購入の促進



取組結果

工事高や社員数の増加に伴い、文具等の購入も増加しているが、新規購入品目等でグリーン商品を選定していなかった件が散見された。

次年度の取組

購入商品の選定において、グリーン商品となっていないものを再度選出し、購入品目・購入額の増加を図り、徹底します。

●各目標項目に対する評価（○×）と次年度の目標値は以下の通りです。

（今年度より評価数値を原単位に変更した為、今年度の評価は基準年（平成24年度）に対して削減ができていないか否かで評価しました。）

目標項目	基準年数値 (24年度)	28年度実績	評価	29年度目標	単位
二酸化炭素排出量原単位	0.222	0.206	○	0.204	t-CO2/売上高(百万円)
電気使用量原単位	0.107	0.053	○	0.051	MWh/売上高(百万円)
燃料使用量原単位	0.074	0.076	×	0.070	kℓ/売上高(百万円)
廃棄物排出量原単位	0.208	0.159	○	0.157	t/売上高(百万円)
コピー機使用量原単位	0.305	0.260	○	0.250	千枚/売上高(百万円)
水使用量原単位	0.369	0.466	×	0.405	m3/売上高(百万円)
グリーン購入の促進	51%	60%	○	76%	%

全体の評価 / 次年度の新たな取組

各項目において大きな変動はなく、前年の数値をほぼ維持している状態になっています。数値を維持できているという事は取り組みの定着とも取れますが、さらに一人一人の意識を高め取り組んでいく必要があります。引き続き全社員出席の会議にてE A21 報告を行うとともに、より具体的な取り組みへの助言等を定期的に行う事で社員一人一人への意識の定着と向上を図ります

平成29年度には本社社屋2F・3Fトイレの改修が予定されています。節水タイプの新型へ変えることで水使用量の削減を図ります。

5. 環境目標・計画・実績・評価・次年度の取組

リサイクルセンター

●平成 28 年度は以下の計画に基づき活動を行いました。

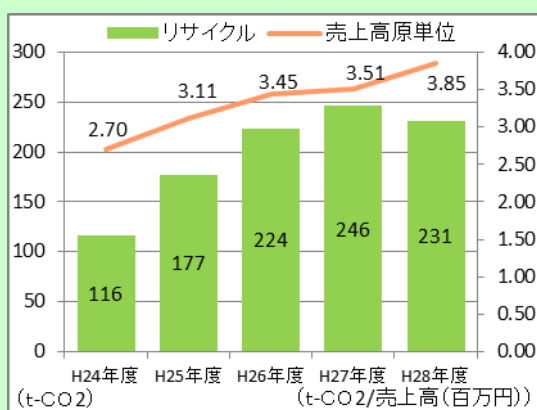
目標項目	活動項目
二酸化炭素排出量の削減	全社員出席の合同会議（各月1回）の議題の中にE A 21 報告” を設ける。 電気使用量の削減、燃料（ガソリン、軽油）の削減を周知徹底する
電気使用量の削減	仕事の効率化を図る
燃料使用量の削減	仕事の効率化を図る ipadを活用した情報伝達で無駄な移動を無くす 破砕機の定期的な点検整備
廃棄物排出量の削減	異物混入が無いよう搬入業者へ注意喚起を徹底する。
水使用量の削減	出荷予定樹木の夏場の灌水（田主丸農場での樹木仮置き期間の短縮）
産廃・一廃 受託 リサイクル事業の促進	産廃受託をふやす リサイクル製品の活用PR
社会貢献に努める	環境活動や子供たちの育成に協力、地域イベントに参加し指導に努める
環境教育・訓練	造園CPD年間50単位の推奨
化学物質の適正管理	使用する農薬の質と量の管理

●各項目の実績値・原単位は以下の通りです。

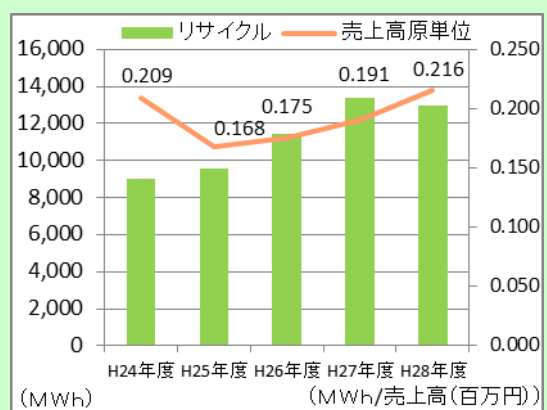
（平成 28 年度より目標の設定や評価の確認を各排出量・使用量を売上高で割り算出した原単位にて行う事としました。）

※電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の平成 19 年度実排出係数 0.387 k g -CO₂/k w h を使用した。

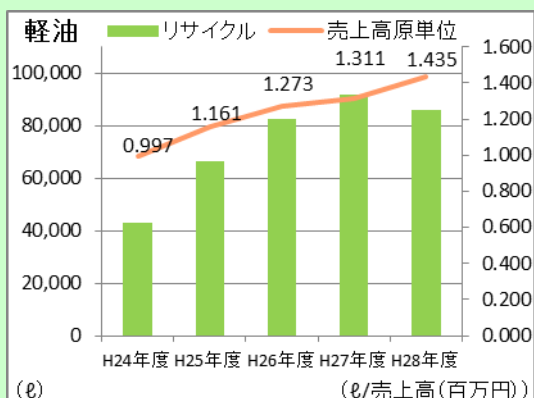
二酸化炭素排出



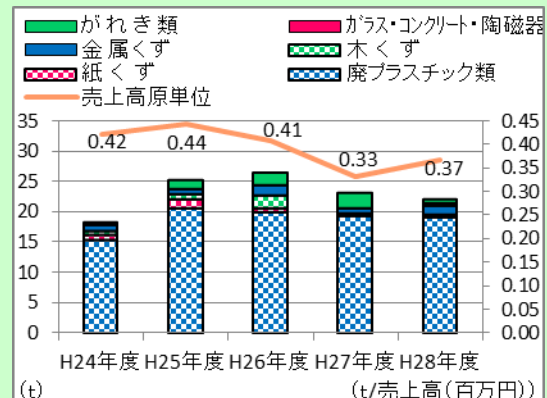
電気使用



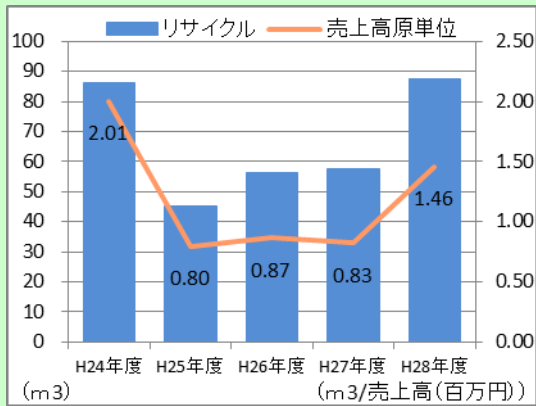
燃料使用



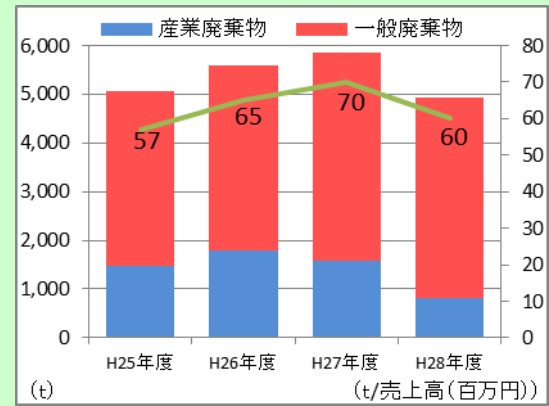
産廃ボックスの廃棄物排出



水使用



リサイクル事業の推進



●各目標項目に対する評価（○×）と次年度の目標値は以下の通りです。
 （今年度より評価数値を原単位に変更した為、今年度の評価は基準年（平成24年度）に対して削減が
 できているか否かで評価しました。）

目標項目	基準年数値 (24年度)	28年度実績	評価	29年度目標	単位
二酸化炭素排出量原単位	2.696	3.849	×	3.515	t-CO2/売上高(百万円)
電気使用量原単位	0.209	0.216	×	0.191	MWh/売上高(百万円)
燃料使用量原単位	0.997	1.435	×	1.311	kℓ/売上高(百万円)
廃棄物排出量原単位	0.421	0.367	○	0.330	t/売上高(百万円)
水使用量原単位	2.006	1.461	○	0.825	m3/売上高(百万円)
産廃受託 リサイクル事業の促進	—	60	○	60	百万

全体の評価 / 次年度の新たな取組

前年と比較すると二酸化炭素排出量・電気使用量・燃料使用量・廃棄物排出量共に減少していますが、売上高あたりの原単位は増加する結果となっています。原因としては、リサイクルセンターの木くすの受託は自然災害や天候の影響を受けやすく、今夏は猛暑が続き受け入れる木くすや草が例年より乾燥状態にあった為、受入重量の減少につながったことが挙げられます。

又、水使用量が増加した原因も今夏の猛暑の為、木くす破碎後の粉塵の飛散防止に散水を行っていたことが挙げられます。

リサイクルセンターは業務（剪定くすをチップ化・堆肥化する）を行うこと自体が環境に貢献する業務である為、稼働によって発生する二酸化炭素や使用する電気・燃料・水は異常変動がないかを確認します。

近年、リサイクルセンターの木くすの受託量は稼働容量を超えているので受託量は増やさず維持し、作業の効率化を図ることで環境に配慮した業務の遂行を目指します。

6. マテリアルバランス

下図は平成 28 年度の資源や資材の投入（インプット）から環境負荷量（アウトプット）までを示したものです。

資源投入量（インプット）				
	< エネルギー使用量 >		< 資源等使用量 >	
	本社 田主丸(営)	電力量	37,887千kWh	圃場樹木（H27.9.30 現在）
上水		318m ³	循環資源使用量	2,763t
地下水		17m ³	その他資源	2,764t
燃料		ガソリン 33,364ℓ 軽油 21,201ℓ	コピーカウンター	モノクロ 118,437千枚 カラー 69千枚
緑の リサイクルセンター	< エネルギー使用量 >		< 資源等使用量 >	
	電力量	12,959千kWh	循環資源使用量	14t
	上水	0m ³	その他資源	0t
	地下水	88m ³	コピーカウンター	モノクロ 6,477枚 カラー 1,460枚
	燃料	ガソリン 0ℓ 軽油 86,087ℓ		



事業活動				
				
緑化事業	指定管理	樹木生産・販売	リサイクル事業	
樹木供給量（植栽樹木移植本数）	34,206本			
圃場樹木（H28.9.30）	7,099本			
リサイクル事業 （中間処理）	①産業廃棄物（受入）	808t（木くず）		
	②一般廃棄物（受入）	4,122t（木くず・草）		
	③再資源化量	4,930t	（木くず）チップ化	1,543t
			（木くず）チップ、バイオマス燃料 （木くず・草）発酵、堆肥化	1,170t 2,217t



環境負荷量（アウトプット）				
	< エネルギー使用量 >		< 資源等使用量 >	
	本社 田主丸(営)	二酸化炭素排出量	147,816k g-CO ₂	チップ
排水		335m ³	堆肥	14t
緑の リサイクルセンター	< エネルギー使用量 >		< 資源等使用量 >	
	二酸化炭素排出量	230,912k g-CO ₂	チップ	1,500t
	排水	88m ³	堆肥	2,203t

7. その他環境関連活動

1) 認証等

ISO・9001 承認取得 登録番号 JSAQ 1368 審査登録機関 財団法人 日本規格協会
 エコアクション21 認証登録番号 0006924 一般財団法人 持続性推進機構



平成24年度エコアクション21
 環境活動レポート大賞・九州
 奨励賞



平成25年度エコアクション21
 環境活動レポート大賞・九州
 九州地方環境事務所特別賞



平成26年度エコアクション21
 環境活動レポート大賞・九州
 エコアクション21 環境活動レポート大賞・九州



第18回環境コミュニケーション大賞
 環境活動レポート大賞・九州
 環境レポート部門・優秀賞



平成27年度エコアクション21
 環境活動レポート大賞・九州
 九州環境カウンセラー協会特別賞



平成28年度エコアクション21
 環境活動レポート大賞・九州
 環境貢献賞

エコ事業所 認定番号第1809号 福岡県地球温暖化防止活動推進センター
 社会貢献優良企業認定（環境配慮型事業）（エコアクション21認証取得）

2) 地球温暖化の緩和、快適な環境づくり

●屋上緑化 壁面緑化

都市部における緑の創出を図り、自然という名のプレミアムを持った都市づくりを目指しています。



JR大分シティ



ホルトホール大分



JR新宮中央駅

●街並づくり・エクステリア

最も身近な緑として、くらしの空間へ運び届け、共に暮らせる空間づくりを立案、設計、施工を行っています。



ジェイフォレスト古賀・新宮



ジョイナス春日原東町



MJR大分駅前

●集合住宅

そこに暮らす人々とその建築物に高い付加価値を与え、また周辺の景観を向上させる植栽を立案、設計、施工を行っています。



RJR郡元



MJR新宮中央



MJR浦上プレシャスガーデン

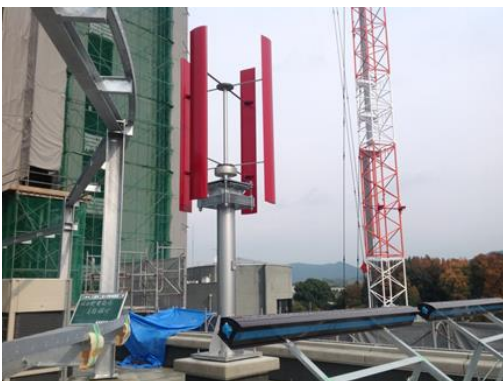
●樹木の生産・販売

植木・苗木の生産地として全国的にも有名な田主丸で緑化樹木の生産・販売を行っています。圃場の見学会も行っており、お客様をご案内しております。



3) 風力発電への取組

温室効果ガスをほとんど排出しない発電方法である「風力発電」の普及に取り組んでいます。2013年に某工業大学より受注し、12月に設置しました。



Kharios N1000-BGG-SP (特注仕様)
 【 機器仕様 】
 ・風車サイズ： 柱高さ 2400mm×回転半径φ1500mm×羽の長さ2500mm
 定格出力 1000w (風速 11.0m/s)
 風速計ブラケット付

4) 既存緑地の管理 公園指定管理

●緑地のメンテナンス

緑は生きています。そこに暮らす人々にきれいな花や葉を見せたり、照付ける日差しを和らげたり、やさしい風を運ぶ為には、緑が健全でなければいけません。健全な緑に健全な人々が集う。そんな空間を維持し続けることができるように取り組んでいます。



ホテル-クラJRゆめホテル



湯布院温泉「梅園」



JR博多シティ「くうてん」

●運営管理

JR博多シティ屋上庭園運営管理



親子畑体験



ガーデニングイベント



稲刈り体験

JR大分シティ屋上庭園運営管理



JR大分シティ



屋上菜園



収穫イベント

●ピオトープ

在来種（植物・生物）の保護と触れて遊べる空間を、日常生活の身近なものとして復活させようとしています。



マンション中庭



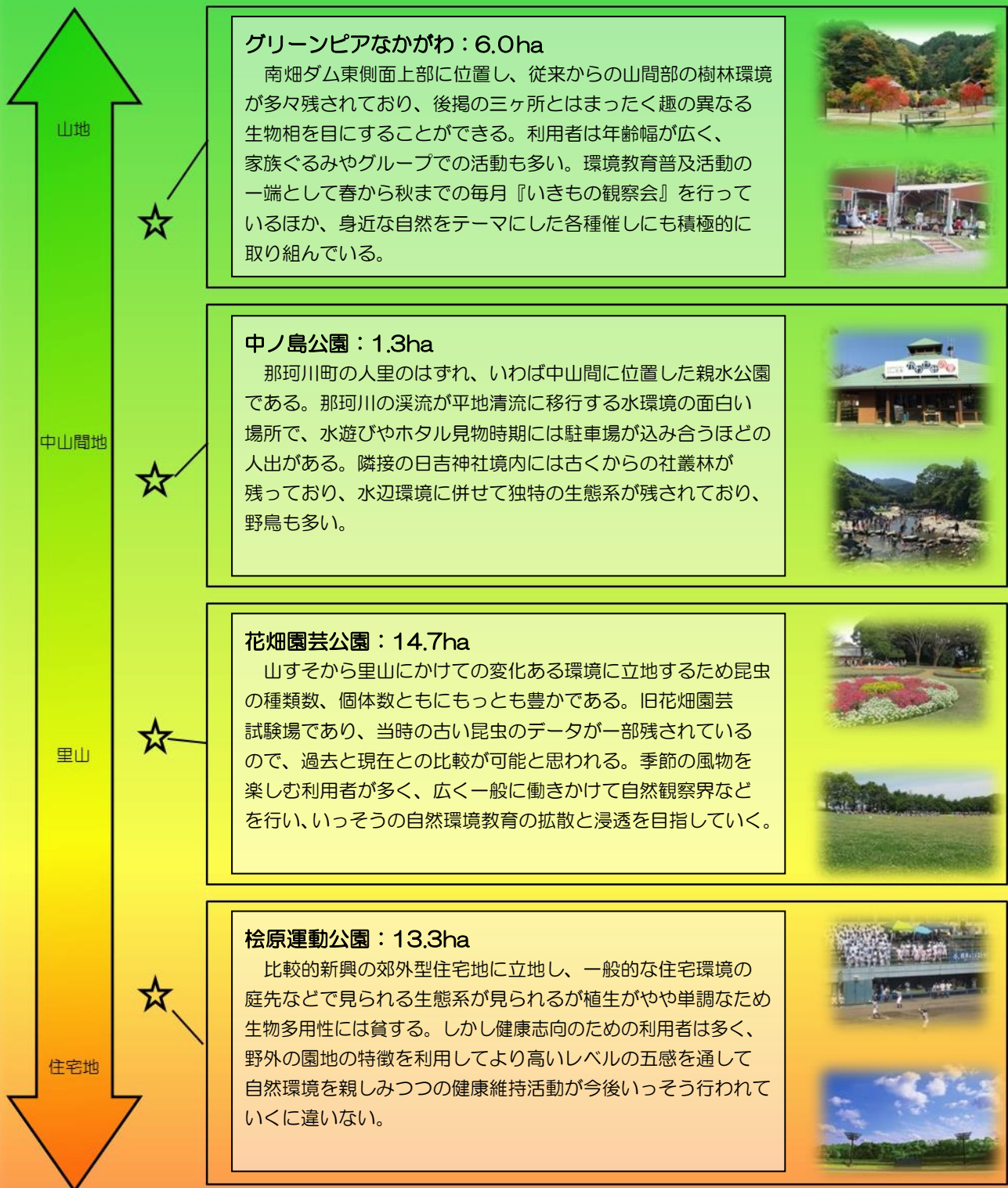
つばめの杜広場



湯布院温泉「梅園」

●指定管理者

現在、桧原運動公園・グリーンピアなかがわ・中ノ島公園・花畑園芸公園の指定管理を行っています。
 (平成29年4月より春日公園も加わります。)福岡県内の山地から住宅地まで幅広い地域の緑地を
 管理することで一つの公園に留まらず、地域全体の生態系に寄与することができると考えています。



これらの場所における周囲環境の考察と生物多様性の現状把握や問題点の洗い出しと、今後の管理の方向性などに資するため、平成28年度よりチョウを用いたルートセンサス(トランセクト)法によるデータ集積を始めました。今後数年間のデータ蓄積をはかり評価を出していく計画です。

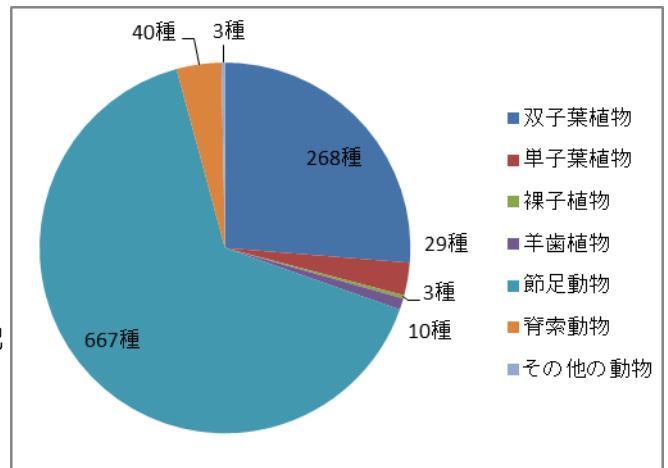
5) ピオトープへの取り組み

福岡県那珂川町のグリーンピアなかがわでは通常の委託管理業務と平行して、テストケースとして施設の生物相の解明を2014年3月より継続して行っています。その結果当該施設の豊かな生態系や生物多様性に富む環境が、現存する数少ないピオトープとしての貴重な価値を持つことが具体的に解明されてきつつあります。

名前の同定できた生物種は283科1,020種（右記グラフ参照）にのぼり、その中には福岡県RDB2011に掲載されている希少植物4種（絶滅危惧ⅠA類2種、絶滅危惧Ⅱ類2種）、福岡県RDB2014に掲載された希少昆虫10種（絶滅危惧Ⅱ類3種、準絶滅危惧7種）

のほか福岡県未記録のガや恐らくヒトリガ科コケガ亜科に属する新種の可能性のあるガ（ヒトリガ科研究の第一人者である日本蛾類学会会長岸田泰則氏よりの私信）なども生息の確認ができました。この科学的データを広く一般に知らしめ、環境教育的な効果をも狙って2016年7月にいつまでも残しておきたい自然シリーズ第一弾として『グリーンピアなかがわの昆虫』（68p）を出版しました。

今後は、定期的モニタリングによる生データの蓄積を計るとともに、公表をしていない昆虫類以外の生物群の紹介ならびに今回書籍に掲載できなかったあるいは今後の追加種である昆虫類の種別紹介などをも含んだ簡易な地域限定版WEB図鑑をHP内に作成し、高まりつつある自然回帰やますます必要となっていく環境教育の参考書又は地域の環境データベースとして広く一般の利用に供してゆく計画です。



福岡県RDB絶滅危惧Ⅱ類
クロシジミ
(2014.07.20 確認)



福岡県RDB絶滅危惧Ⅱ類
コツバメ
(2016.04.22 確認)



福岡県RDB絶滅危惧ⅠA類
ヒナノシャクジョウ
(2014.08.07 確認)



福岡県RDB絶滅危惧ⅠA類
リュウキュウマメガキ
(2015.06.13 確認)

6) 社会貢献

●自然教育 取組：本社（指定管理・グリーンピアなかがわ）

・イベントの運営

「グリーンピアなかがわ いきもの観察会 2016」 「まほろば自然学校」共催

緑に関する私たちの事業が、人類のため社会の為に重要であることを発信していきたいと考えています。そのため、子供たちへの自然教育を実施しています。この取組を通じて緑地を造るだけの造園工事業から緑の空間を活用し、重要性を伝える、より社会性の高い事業に切り替えます。

「カブトムシ捕獲大作戦」

森林資源の恵みを子供たちに身近に感じてもらうこと自然の中で遊ぶことの楽しさを感じてもらうことを目的に実施した企画です。

「音楽祭」

自然ゆたかな「グリーンピアなかがわ」で、季節の自然を感じながら音楽を楽しみました。

「私たちの樹プロジェクト」

福岡市の小学生と学校に植樹し、植物の大切さを伝える活動を行っています。



(いきもの観察会) (カブトムシ捕獲大作戦) (音楽祭) (私たちの樹プロジェクト)

●ボランティア活動 / インターン受入

（社）福岡県造園業協会主催の五ヶ山ダム建設用地に広葉樹を植栽するボランティア活動に積極的に参加しています。

毎年、高校生・専門学校生・大学生のインターンシップの受入を行っています。

将来的に緑に関わる職業に就いて環境に貢献できる人材育成を支援しています。

28年度はベトナムからの留学生3名がインターンシップを行いました。



(植栽ボランティア)

(学生インターン受入)

8. 環境関連法規への遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、控訴等の有無

環境関連法規	要求事項	遵守状況
グリーン購入法	一般的な義務	適
廃棄物処理法	一般廃棄物の処理（委託）	適
	一般廃棄物の処理（委託基準）	適
	産業廃棄物の処理（処理義務）	適
	産業廃棄物（処理基準）	適
	産業廃棄物（保管基準）	適
	産業廃棄物（保管の届出）	適
	産業廃棄物（委託）	適
	委託基準	適
	産業廃棄物（排出者責任）	適
	産業廃棄物（多量排出事業者の義務）	適
	産業廃棄物管理票の交付	適
	投棄禁止	適
	焼却禁止	適
	産業廃棄物管理票の写しの保存期間	適
	管理票交付者の報告書	適
管理票の写しの送付を受けるまでの期間	適	
管理票交付者が講ずべき措置	適	
雑則	報告の徴収	適
建設リサイクル法	建設業等を営む者の責務	適
	対象建設工事の届出に係る事項の説明等	適
	下請負人に対する元請業者の指導	適
オフロード法	事業者及び使用者の責務	適
	使用の制限	適
	雑則	適
	建設業法に規定する建設業を営む者で特定特殊自動車を使用する者が特定特殊自動車（法の施工の前に製作等されたものを含む。）の排出ガスの排出の抑制を図るための取り組むべき措置に関して定めるものである。	適
	経過処置	適
騒音規制法	特定建設作業の事前届出	適
	規制基準の遵守	適
振動規制法	特定建設作業の事前届出	適
	規制基準の遵守	適
自動車リサイクル法	自動車の所有者の責務	適
	使用済自動車の引渡義務	適
	再資源化預託金等の預託義務	適
フロン排出抑制法	特定製品の管理者の責務	適
	第一種特定製品の管理者の判断の基準となるべき事項	適
	業務用のエアコンディショナー、冷蔵機器及び冷凍機器でフロン類が充填されている第一種特定製品のフロン引渡し	適
	回収依頼書、委託確認書の授受。	適
	引取証明書の授受。	適
	第一種フロン類回収業者は、第一種特定製品廃棄者に対し、フロン回収料金を請求出来る。	適
	フロン類の放出禁止。	適
家電リサイクル法	事業者及び消費者の責務	適
	料金の請求	適
小型家電リサイクル法	定義	適
	事業者の責務	適
農薬取締法	使用の禁止	適
	農薬の使用の規制	適
	水質汚濁性農薬の使用の規制	適
水質汚濁防止法	排水基準の遵守義務	適
大気汚染防止法	排出基準の遵守義務	適
悪臭防止法	規制基準の遵守義務	適
消防法	消防	適

当事業所及び建設現場に適用される環境関連法規の順守状況を確認した結果、違反は有りませんでした。また、関係機関及び利害関係者からの指摘も訴訟もありませんでした。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

評価および見直しの実施日 2017年1月13日
評価者（代表者） 木下 浩市（社長）

評 価

前期は、公園の運営管理を通じてまとめた生き物観察の記録を「グリーンピアなかがわの自然」として出版しました。緑地に携わる仕事だからできる生き物の観察記録を形にすることができました。

また、以前から課題だった水使用量の問題については建物の老朽化に伴うハードの問題であるとの判断に至り、改修工事の実施を決意しました。前期は改修工事の検討、契約まででしたが現在改修工事を行っています。トイレは節水型を採用していますので今期の結果に期待したいところです。

リサイクルセンターは気候の問題と認識していますが、散水における節水の方法の検討や機械の老朽化に伴う不具合を早めの点検・整備で防止することが環境改善につながると考えます。

本社でのその他の項目は基準年から比べると改善された項目が多く見られますがここ数年は手詰まりです。新しい視点の取組みが必要な時期に来ていると認識しています。

見直し(変更の必要性和指示)

- 現在実施している公園での生き物観察を益々発展させることを目指し、環境方針 1. (6) ビオトープへの取組を 2. (4) とし「公園の運営管理を通じて生き物の観察記録を作成し地域の環境指標として活用します。」とする。
- リサイクルセンターの乾期における節水対策を検討すること。
- 本社・田主丸では、仕事の役割分担や作業の効率化を検討し、特に燃料の使用（原単位で）を削減できる方法を検討すること。



KINOSHITA

～ 環境づくりに技術研鑽を通じて地域社会に貢献する ～